

縁をつなぎ 安心をとどけるお寺

清元院だより

第8号



中国から来られた『大権修利菩薩』

清元院 開山堂入口右側

大い 中国の教

清元院の開山堂入口左側に上の写真の『大権修利菩薩』（だいげんしゅりぼさつ）様が安置されています。この像をお寺では「大権（だいげん）さま」と呼んでいます。

大本山永平寺をお開きになった道元禅師さまが中国に渡られた時、利用された中国の寧波の港の守り神が大権さまです。ですから中国風の服を着て手をかざし、遠くの船を見ているお姿なのです。そして、道元さまが書物を書き写すのを不思議な力で手伝ったり、帰国する道元さまを守るために日本までついてこられたりしました。現在では曹洞宗の教えを守り、多くのお寺を守る神様として全国の曹洞宗寺院でお祀りされています。

清元院の大権さまは、今から277年前の江戸時代中期（寛保元年）に宮木の池田家先祖「池田三郎兵衛」により寄進されたものです。約300年の時を経て今なお清元院を守り続けてくださる大権さまを思うと、自然と手が合わさり感謝の気持ちが高まってきます。

● 誌上法話⑥

● コラム「相承」③

● おてらニュース

● お寺のスヌメ

● お彼岸の作法

発行：曹洞宗大梁山清元院 住職 井上英之

佛歴2561年 平成30年3月15日

「きりたんぽ鍋が届くたびに」 なべ

清元院には毎年十二月三十一日にきりたんぽ鍋セットが届きます。送り主は住職の友人の柴田君です。三十年間毎年届きます。夕食を食べ終わるとお礼の電話をかけます。そして彼に電話をすることで「自分は僧侶として善い生き方ができているか」と毎年振り返るのです。それはどうしてか…

柴田君は大学時代の友人で、一般の家庭から出家して僧侶になったのでした。彼とはとても気が合いました。大学で学んだ仏教をこの身で確かめようと在学中に大本山總持寺に二人で修行に行ったこともありま

す。そして大学を出てからは毎年きりたんぽ鍋が届くようになりました。

卒業から十年程経った三十歳の頃、お礼の電話がもとで彼のお寺を訪ねると、彼は毎日坐禅をして、暇さえあれば書物を読み、お釈迦さまの教えを学び続けていました。

また四十歳の頃、東京で十年ぶりに彼と会うことになりました。食事の最中に「どちらが布教の志が高いか」という議論になり、私が「お寺で待っているだけじゃダメ。これからの布教はお寺を出て人々の中に入っていないといけない。」と言うと、珍しく彼は「そうだよなあ。」と妙に納得したのでした。その数年後、いつものようにきりたんぽのお礼の電話をすると、彼は地元のFMラジオで毎週ラジオ法話を始めていたのです。さすが柴田君です。ところが自分を振り返っ

てみると口先だけで何もしていない。そして、勤めている学校の仕事があるんだから彼のようにできなくても仕方がない…と自分に言い訳をしていたのでした。

また月日が経ち、私は五十歳を前にして住職になりました。そして教師との兼業を続けるかどうか悩んでいた。その年もいつものようにきりたんぽが届いたのでお礼の電話をかけると彼はこう言ったのです。「おれ今年から、布教のために全国を回って法話をしているんだ!」と。私は、若き日の志のまま、お釈迦さまの教えを学び、行い・伝え続ける彼の生き方に心を打たれたのでした。そして、三十年もの間、僧侶としての生き方をうやむやにしてきた自分を恥じると同時に、僧侶として生きていく決心がついたのでした。そして今、彼のように一人でも多くの方にお釈迦さまの教えと安心を届ける生き方を目指して二年前から法話の勉強を始めたところです。

永平寺を開かれた道元禪師様は『人の心にもともと善悪はない。どんな縁を結ぶかによって善くも悪くもなる。だから立派に仏道を歩んでいる人の生き方に度々触れて、その教えを何度も見たり聞いたりするべきである。』と説かれました。みなさんの中にも、本当は自分がするべきことが分かっている、なかなか決心がつかなくて動き出せないでいる方もあるかもしれません。そんな時はお手本となる方を見つけて、ほんの少しの勇気を出してその方に近づき、縁を結んでみてください。きっとあなたの決心が知らず知らず動き出すことでしょう。

コラム「相承」③

人と人が顔と心を合わせ継承していく「相承」について、独り言をいうコラムです。

「床の間のユミ」

床の間の上に「落し掛け」という部分がある。その裏側は昔から立派な壁にしないでワラの土壁だったり、現在ならコンクリートの塗りっぱなしだったりして、まるで手抜き工事のようにわざと未完成にしておく。大事な床の間をわざと完成させないで、次の代に「あとではよろしく頼むよ!」と引き継いでもらうためだそう。

左官屋の世界でもこれを知らない人が増えてきているそうだが、あなたの家の床の間は次代に引き継ぐ作りになっているだろうか。ぜひ一度のぞいてみてはどうだろう。



この裏側!

大般若法要&落語会

3月10日(土)に恒例の大般若法要を行い、60名の参拝者と10人の和尚様で元気に賑やかにご祈禱しました。家門繁栄・無病息災・心願成就・合格祈願など参拝者それぞれの願いに合わせてご祈禱しました。

法要の後は、上方落語家の桂小文吾師匠の落語でみなさん大笑いして笑顔のお土産も持って帰ってもらいました。

【参加者の声】

おっさん、落語は本当によかった！
やっぱり本物は違うわ！大笑いしたけ。
またお寺で楽しい事してごしないよ、行かせてもらうけ！



除夜の鐘・三朝祈願

12月31日の今年の除夜の鐘は、小さいお子さんもおつくことができるように例年より早く9時から打ち始めました。小さい子供連れの親子から始まり、約40名が撞きに來られました。年越しそばも振る舞われて賑やかな除夜の鐘つきとなりました。また、今年から参道に100個のキャンドルを並べ皆さんをお迎えしました。

新年0時から本堂で三朝祈願をお勤めして、1年の無病息災をご祈禱しました。

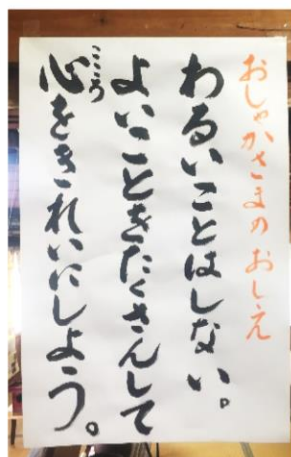


「船上こども園 お寺でしゅぎょう」

2月28日(水)に船上こども園の小学校入学を控えた園児25名が修行にやってきました。

①法話(お釈迦様のおしえ) ②お経 ③紙芝居(お釈迦さまのおさと) ④坐禅(15分) ⑤写仏(釋迦如来)の5つの修行ををバッチリ全員が90分かけて勤めあげました。

来年小学校1年生になったら、また修行に來られる予定です。成長した姿を楽しみに来年を待ちたいと思います。



お寺葬

平成30年に入って、清元院で2件のお寺葬(お寺の本堂での葬儀)がありました。清元院ではお寺葬をおススメしており、年々その数は増加中です。

お寺葬の良さは…①本堂にはもともと荘厳(かざり)があるため簡易な祭壇で十分美しいので費用が抑えられる。②葬儀で最も費用がかかる施設使用料が抑えられる。③そして何より本尊のお釈迦さまの尊前にご遺体を安置しご供養でき、山門から最後の出棺ができる。④地域の方も葬儀に参列しやすく共に生活した方々に見送ってもらえる。

・・・など、丁寧な供養と費用軽減の両立ができ
少子高齢化地域の
実態に合った葬儀が
「お寺葬」なのです。
遠慮なくご相談ください。



お寺のススメ

ご朱印のススメ

御朱印ブームで、御朱印帳をお持ちの方も多いことでしょう。ところで、清元院の御朱印をもっておられるでしょうか？御朱印は観光地や霊場だけでなく、どんなお寺でも書いて頂けるものです。清元院でもいつでももお書きしめます。



梅花講のススメ 講員を募集します！

講員は現在3名です。仏教音楽演奏を月に1回程度楽しく和気あいあいと練習しています。興味のある方、試しに一回やってみようと思われる方はお寺までお気軽にご連絡ください。道具はお貸しします。

縁結びのススメ

前回好評だった「お寺で縁結び」の第2回の開催を予定しています。

◆期日 6月10日(日)

清元院で良縁が結ばれることを心から願っております。※詳細は、お寺にお問い合わせいただくか、町の放送をお聞きになるか、4月後半に配布されるチラシをご覧ください。

過去帳のススメ

お家の過去帳を作って仏壇に置きませんか。初代から現在までの先祖のお名前、戒名、命日など過去帳にきちんと残すことで、命をつないでくださったご先祖様に感謝の心を届けます。遠慮なくご相談ください。



お彼岸のススメ

お彼岸は、季節の変わり目にあたり、いのちの尊さに感謝し、ご先祖様を供養し、ご加護を願う期間です。また自分自身のいのちの大切さを見つめなおす期間でもあります。

彼岸の入り (3月18日)

- お仏壇、仏具の掃除
- お墓の掃除
- 花やお供え
- ※シブだけでも構いません。
- ※お供えをしてもよいです。
- ※お寺に参るとなると丁寧です。

お中日 (3月21日…春分の日)

- お仏壇参り
- お墓参り
- お寺参り
- ※家族みんなで出かけましょう

彼岸明け (3月24日)

- お仏壇・お墓のいたんだ花や供物を下げます。

永代供養墓見学相談会

◇ 3月25日(日) 15時～

はすとも(蓮友)の会

◇ 4月7日(土) 8時30分～

桜の花が咲くころに、蓮の蓮根を植え替えます。今年は倍の40鉢に増やす予定です。住職一人では大変です。そこで蓮友の会(はすとも)を募集し、みなさんと一緒に蓮を育て、花を楽しみましょう。

参加者にはもちろん、蓮を一鉢おすそ分けいたします。

花まつり

◇ 4月8日(日)

- ・終日：甘茶かけ、甘茶飲み放題
- ・プレゼント、花まつりサイダー
- ・10時：法要、紙芝居、福引き

月例会

◇ 写経写仏の会

・第1日曜15時～

◇ 坐禅会

・第3日曜6時～

◇ お寺ヨガ

・第4水曜19時半～



清元院

住職 井上 英之

〒 689-2522 鳥取県東伯郡琴浦町宮木 57
電話 0858-55-7063 fax 0858-55-7064 携帯 090-4923-8768
メール inoterai1@mx1.tcbnet.ne.jp facebook: 清元院 井上英之